



◎ 企業見学ツアー in 京丹後

京丹後の「ものづくり企業」と地域の魅力に触れる充実の3日間



COC+事業、京都府「1まち1キャンパス事業」の一環として、丹後機械工業協同組合、京都工業繊維大学にご協力いただき、「企業見学ツアー in 京丹後」を8月3日(木)～5日(土)に実施しました。

株式会社韋城製作所、株式会社積進、株式会社タンゴ技研、社会福祉法人みねやま福祉会の見学に加え、経営者や若手社員との交流会、FMたんごでの番組収録など、2泊3日のプログラムに学生6名、教職員3名が参加しました。

「業種や仕事内容だけでなく、経営者の想いや魅力といった視点で企業を見ることの大切さを学びました」「若手社員の方と話し、どんな目線を持って働くかについて考えるきっかけになった」など、京丹後のものづくり企業やひとびとの魅力に触れる3日間になりました。

ラジオ番組は、8月22日(火)に特別番組「京都文教大学1まち1キャンパス～京丹後編～」としてFMたんごでオンエアされました。京丹後でお世話になったみなさま、ありがとうございました。

◎ 宇治市、京都文教大学、京都文教短期大学による連携協力懇談会

これまでの連携を振り返るとともに、若者の定住促進等の課題について意見交換を行いました



8月28日(月)、宇治市、京都文教大学、京都文教短期大学による連携協力懇談会が本学にて開催されました。懇談会には、山本正宇治市長、平岡聡大学学長、安本義正短大学長のトップ3人をはじめ、市や大学・短期大学の幹部が参加しました。

京都文教大学・短期大学は2010年に宇治市と包括連携協定を締結し、宇治観光や商店街活性化、子育て支援など、地域連携の取組みを展開してきました。平成26年度に本学が文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択され、これをきっかけに連携協力懇談会を開催し、今回で第4回目となります。

前回開催から1年間で実施した連携事業についての報告のあと、山本市長からは「短期で数多くの連携実績が生まれたことを評価。今後も継続していく努力を」と述べたほか、安本学長からは「官学の連携だけではなく、企業の声や意見を聞く機会を設ける仕組みをつくってきたい」、平岡学長も「庁内組織の横断として大学の活用を積極的に行っていただきたい」と、今後の連携のあり方について意見表明しました。

今年度から運用が開始された宇治学の「副読本」、障がい者福祉や学習支援事業、健康・長寿をキーワードとした食物分野からの支援等、大学・短期大学がもつ専門分野での連携強化・拡大について、議論を深めました。特に「若者の定住促進」について、企業の声も取り入れた産官学民連携の必要性や、企業と学生の出会い創出の必要性について活発な意見交換が行われました。本学COC+事業として展開している「ともいきパートナーズ」を活用したネットワーク化等、今後も連携推進を図ってまいります。

お知らせ

ともいき(共生)フェスティバル 2017

● 日時：2017年12月9日(土) 10:00～16:00

● 会場：京都文教大学 サロン・ド・パドマ 他

子どもからご年配の方、障がい当事者や留学生など、様々な人が集い、交流できる地域のみなさんを対象とした大学開放イベント!

今年度も様々なステージやブースを準備しています。

(1) 学長ともいきトーク (2) ともいき文化祭ステージ (3) ともいき講座

(4) ともいきブース

(a.ミニ講座・トークセッション/b.ワークショップ・体験コーナー/c.展示/d.模擬店/e.物販/f.ステージ/g.その他)

● 主催：京都文教大学 地域協働研究教育センター

● 問合せ：京都文教大学フィールドリサーチオフィス



↑ステージ発表



↑ともいきブース

※2016年度の様子

京都文教大学 地域協働研究教育センター

ともいき vol.12

ニュースレター

vol.12

2017年9月発行

「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス」でのさまざまな活動をお伝えします。







学生が自ら、地域の課題を見つけ、その解決策を模索する取組み 地域連携学生プロジェクト

文部科学省の2007年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色G P)」に採択された「現場主義教育充実のための教育実践～地域と結びフィールドワーク教育～」の取組では、これまで多くの学生が参加し、継続的に取組んできた教育プログラムとしての地域貢献活動が非常に高く評価されました(2007年度～2017年度採択プロジェクト数:延べ78団体)。本学では、その取組を継続・発展させた学生全体の地域連携プロジェクト活動をさらに推進し、学びと地域貢献を両立させる場として積極的に創出しています。

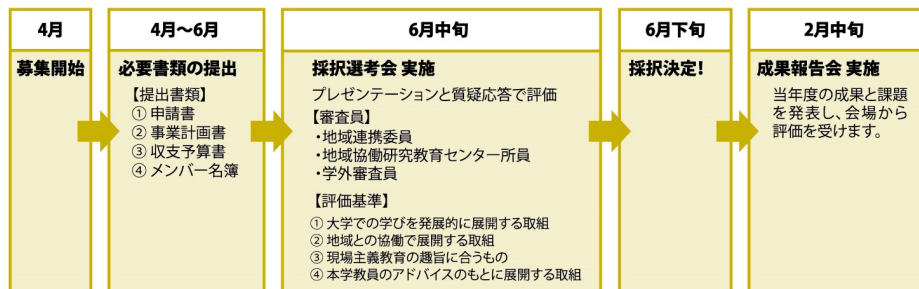
「地域連携学生プロジェクト」は、地域を対象とする学生の自主的活動のなかから、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みをプロジェクトとして選定し、支援、助成しています。

地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどの学部、学科を超えた主体的な取組として、2017年度は3つのプロジェクト(継続3件)が採択され、現在活動を進めています。

今回は、今年度採択のプロジェクトを、活動の概要とプロジェクトメンバーとして活動を行う学生たちのコメントを中心に紹介します。

※   のマークがついている団体は、SNSで活動を発信しています。
( :Facebook  :twitter) 検索いただき、ぜひ最新情報をご覧ください。

地域連携学生プロジェクト 採択までの流れと年間スケジュール



宇治☆茶レコジャー

学生が宇治茶について学び、そこで気付いた宇治茶の魅力を広域に発信していくプロジェクトです。地域にも根付いてきている「宇治茶スタンプラリー」の実施をはじめ、宇治茶に触れるイベントやお茶の淹れ方のワークショップなどを展開していきます。これまでも実施してきた「聞き茶巡り(参加者がお茶屋さんを巡り、店主さんとの会話と美味しい宇治茶を味わうイベント)」を、昨年度から学生ガイド付きのツアー形式に変更し、より観光とリンクした催しとなりました。また、本年度は今まで行ってきた淹れ方のワークショップを学童保育で行い、次世代のコアな宇治茶ファンの育成を目指します。

最新情報はこちら   メール:ujichale@gmail.com

宇治☆茶レコジャー 代表
 竝木 康匡 (臨床心理学部臨床心理学科 2年次生)

私自身、宇治で活動を行うまでは急須でお茶を淹れたことがありませんでした。活動を通して宇治茶の魅力を知り、今では自分用の急須を持つほどの宇治茶ファンです。8年目のプロジェクトである宇治☆茶レコジャーでは、宇治茶の魅力を幅広い世代の方に知っていただき、宇治茶から始まるコミュニケーションをみなさんに楽しんで頂けるように活動しています。お茶屋さんをはじめとした地域の方々を大切にしながら、今後も新しいことにも積極的にチャレンジしていきます。



商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas

CanVas(キャンバス)は宇治橋通商店街振興組合のご協力のもと、商店街の活性化活動に取り組んでいます。昨年度に引き続き、写真を撮りながらゲーム感覚でまちあるきを楽しむことが出来るイベント、「宇治ロゲイニング」にさらに工夫を加え、今後も長期継続的に実施していきたいと考えます。また、商店街イベントへの参画や、学生目線での店主さんとおすめの商品を紹介する「イチ推しプレート」の作成、商店街の公式ホームページの更新にも携わっていきます。今年度も多くの新入生を迎え、それぞれが楽しみながら活動に取り組んでいければと思います。

最新情報はこちら   メール:canvas.uji@gmail.com


商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas 代表
 兼井 茜 (総合社会学部総合社会学科 3年次生)

2014年に「商店街を“笑店街”にしたい!」という思いから結成されたCanVasも今年で4年目を迎えました。8月に開催されたクラフティール夜市では、商店街の店主さんが通りすがりにお声をかけてくださったり、地域の子供たちが「去年も来たよ」と嬉しそうに話してくれたりしたことが、本当に嬉しかったです。こんなふうに笑顔溢れる、私たちの大好きな宇治橋通り商店街の魅力を、少しでも多くの方に知ってもらえることが出来るよう、これからも頑張っていきたいと思っています。



響け! 元気に応援プロジェクト

宇治を舞台にしたアニメ作品「響け! ユーフォニアム」を通して、地域とアニメファンをつなげる取組みを行っています。活動内容はプロジェクト発足当初から実施しているファンを対象にしたキャラクターの誕生日イベント、地域の子どもを対象にしたワークショップ、昨年度からは聖地巡礼を目的に宇治へ訪れたファンの居場所作りなどにも力をいれています。また宇治市(商工観光課)、宇治市観光協会をはじめ地元商店街や企業と連携しながら行政への提案や企業主催の関連イベントへの協力なども積極的に行っています。そして「地域ぐるみで作品を応援」をドンドンしていきます。

最新情報はこちら  ブログ:http://hibikejoinus.blog.fc2.com/
 メール:hibipii@gmail.com

響け! 元気に応援プロジェクト 代表
 安西 一馬 (総合社会学部総合社会学科 3年次生)

今年で3年目の団体で、アニメを活用して宇治を更に盛り上げたいと日々奮闘中です。私たちの団体ではファンの方や地域の方と交流する機会が多く、年齢や立場を越えてお話をさせてもらうことで更なる発見や学びを与えてもらっています。また最近では「響け! ユーフォニアム」の知名度も向上しており、自分の事のようにうれしく思います。ファンの方や地域の方に宇治を好きになって貰うために、私たちが「宇治」と「アニメ」の架け橋になり、学生らしいおもしろい事をできるように頑張ります。



全国まちづくりカレッジin宇治

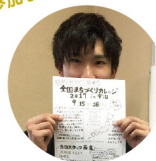
「まちカレ」は、まちづくりや地域活性化に取組むプロジェクトやゼミ活動を行う大学生(高校生)が集まり、各々の活動紹介や課題の共有を通して交流する「まちづくり大学生による全国大会」です。今回で19回目を迎え、毎回、参加校が持ち回りで開催しています。京都文教大学も2009年より参加しており、2011年以來6年ぶりに当番校を務めることとなりました。北は北海道から南は九州まで、約20校が参加し、9月15日(金)、16日(土)の2日間の日程で開催されます。地域連携学生プロジェクト3団体のメンバーが中心となり、学生実行委員会を立ち上げ、3プロジェクトの個性を活かしたまちカレを企画・運営していきます。

全国まちづくりカレッジin宇治 実行委員長
 吉岡 朱祐 (総合社会学部総合社会学科 2年次生)

まちカレは学びと交流の場です。私自身今回はまちカレを企画・運営する側として関わらせていただいています。そこで学びでは、企画内容が決まらず時間だけが進んだ時は焦り悩み、人が集まって話し合い、良さそうなアイデアが出た時は喜んだりしています。また、交流自体が貴重な体験でもあります。以前2011年にも京都文教大学でまちカレが開催された時は、実行委員会の学生が参加校の北海道の大学と仲良くなり、後日北海道の大学まで遊びに行くという話も出ています。個人的にそのようなつながりをとても楽しみにまちカレまで準備しています。



参加学生の声



参加学生の声



地域を拠点に活動するプロジェクトは他にもいっぱいあります！

地域で活躍する学生たちの取組紹介

前項で紹介した地域連携学生プロジェクトの他にも、本学には地域へ出て、地域と活動する学生団体が多数あります。学内のサークルや、学生や地域住民からなる実行委員会形式のもの、また、本学教員が顧問を務める研究会から発足したものと形式は様々です。本学のある宇治市や、最寄り駅のある京都市伏見区を中心に、地域のニーズや課題に併せた取組が行われています。ここでは、それらの地域活動の一部を紹介します。

掲載プロジェクト以外にも、宇治を訪れる修学旅行生の旅行プランを企画し、当日の案内やガイドを務める「修学旅行サポートプロジェクト たび旅」など旅行や観光をテーマにしたプロジェクトも盛んです。また、地域の町内会や自治会からの依頼を受け、夏祭りや地藏盆、お楽しみ会などへの出演・出展等も多く、沢山の学生が地域と関わる機会を持っています。



↑地域のイベントでマジックを披露する学生サークル

子ども学習支援

一般社団法人マキシマネットワーク、NPO法人まきしま絆の会、宇治市と本学が連携し、地域を志向した教育研究を行っています。そのメインの活動として、毎週月曜日の放課後、会場のコミュニティカフェ「Reos嶺島」で学習支援を行っており、会場はいつも子ども達と学生の熱気に包まれています。また、本研究につながる「子どもつながり食堂」の教育研究を通して、こども教育心理専攻生を中心とした学生スタッフが児童理解について実証的に学びながら、子どもと信頼関係を構築し、親と子の絆づくりや子ども同士、保護者同士の「つながり」に貢献することを目指しています。



子ども学習支援

石津 茜 (臨床心理学部教育福祉心理学科 4年次生)

子ども学習支援とそれに繋がる「子どもつながり食堂」では子ども食堂と児童館の役目をあわせて、私達学生が先生となり学習支援を行っています。宿題や私達が用意したプリント、ゲームなどした後、友達同士で楽しく食事をします。そこから新しくできる友達、学校では知り合いだったけど仲の深まっていく友達など、多くの「つながり」ができます。子ども達にとって温かい一つの居場所、「繋がり大切さ」を実感できる場所になるようこれからもサポートしていきたいです。



すきっぷプログラム

すきっぷプログラムでは、発達障がいを抱え、学校への適応や対人関係につまずいている小学校2年生から4年生の子どもと保護者を対象としたグループ療法を心理専門スタッフのもと、学部生・院生が中心となって行っています。子どもたちは、遊びや運動、グループ活動を通して自信や協調性を高め、子どもたちの全般的な発達への支援とすることを目指しています。また保護者に対しては、親同士の交流の場を提供し、日常生活で周囲の理解や協力が得られず孤立しやすい親たちの情緒的支援を目的としています。



すきっぷプログラム

出村 詩音 (臨床心理学部研究科修士 1年次生)

様々な活動を通して、子どもたちの成長や楽しそうに活動している様子を目の当たりにすると「やってよかったな」とこちら側も嬉しくなります。私は加入して間もないため未熟な部分がたくさんありますが、頼もしい先生方や頼れる先輩方に助けていただきながら活動しています。活動を通して、参加しておられる方々にとって有意義な場所を提供したいと思うと同時に、自らの臨床経験を増やしながら、参加しておられる方々に寄り添い共に成長していけたらと考えています。



遊びの実践研究会

本研究会は、教育福祉心理学科保育課程で学ぶ学生らが中心メンバーとなり、「遊び」について考えたり、自ら童心にかえり遊ぶ事を体験しています。遊びの面白さをとことん追求し、遊びの引き出しを持つ事で保育者としての技術や子どもが好む遊びについて考えられる機会を増やす事が活動目的です。

学内を飛び出し地域での活動場所も増え、これまでに保育園等に出張しワークショップを開いたり、毎月の誕生日会・お別れ会等イベントを盛り上げに出かける機会も頂けました。今後も地域の子も達とふれあう機会を予定があり、皆様に会える事を楽しみにしております。



遊びの実践研究会

嶋田 真実 (臨床心理学部教育福祉心理学科 4年次生)

これまでに地域の園に出向くため、季節や子どもの月齢に合せたおもちゃづくり、製作あそびの活動、紙芝居等の出し物を講義の合間に準備し、沢山の子ども達と遊んできました。実際に子ども達と関わる事で、どのような準備があると遊びが盛り上がるか等、次の活動に繋ぐ発見があります。また園の行事に参加し劇も行いました。学年を超えたメンバー構成ですが自分達で演目を決め、小道具作りやセリフにアレンジを加えたり、劇中取り入れたよここいダンスを子どもと踊る等、子どもの笑顔が沢山みられる様日々遊びを盛り上げています。



京都文教大学バスツアーズ

大学に隣接する向島ニュータウンは、高齢者の一人暮らし世帯が多く、住民同士のコミュニケーションも希薄になりつつあります。一人暮らしの高齢者に、外へ出て他の住民と交流する機会を、と始まったのが本プロジェクトです。学生がバスツアーを企画、参加者の意見をもとによりよい旅行プランに練り直し、ツアー当日は学生が添乗員を務めます。今では向島在住の中国帰国者や福島からの避難者の方々にも参加いただき、広がりをみせています。今年度、(公財)大学コンソーシアム京都/京都市「大地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業)」の採択を受け、活動を行います。



京都文教大学バスツアーズ 代表

渡邊 綾乃 (総合社会学部総合社会学科 2年次生)

私は、バスガイドに憧れていたため、このプロジェクトに参加しました。ツアーの企画や実施をすることで、旅行業界の仕事も体験しています。バスツアーには話しやすい雰囲気があり、自然と参加者の方たちや、学生と地域の方の会話が生まれています。ツアー後は反省点もありますが、参加者の方の体験をもとにしたアドバイスや「次も楽しみたい」と言葉を送ってくださり、もっと楽しく交流できるツアーにしていけるために様々な企画をして行こうという気持ちになります。



京都文教大学多文化交流プロジェクト

向島ニュータウンとその周辺地域には在日外国人や中国帰国者、京都の大学に学ぶ留学生が多く居住されています。しかし、私たち学生や地域住民との交流はまだ少ない状況です。その理由のひとつに、「日本語が話せない」ことが、コミュニケーションの不足を招いていると考えました。このプロジェクトでは「留学生がつなぐ」をテーマに、学生たちによる留学生向けの日本語教室を中心に、留学生と一緒にワークショップや交流会等を行い、大学生・留学生・在日外国人を含む地域住民が一堂に会し、相互理解を深めることを目指します。



京都文教大学多文化交流プロジェクト

岡崎 瑞穂 (総合社会学部総合社会学科 2年次生)

日本語を教える事は初めての経験で、教え方はみんな手探り状態です。しかし、自分たちで授業内容の提案、計画や準備を行いそれを実行する事は自分自身の成長にも繋がっています。さらに、私たちが一方的に教えるだけでなく、英語、中国語、ドイツ語やロシア語など受講生の母語を教えるも考えています。授業を会話中心にし、コミュニケーションを沢山とることで、堅苦しい授業ではなく楽しい授業を目指しています。教える学生が足りない日があるほど、私たちの母語である日本語を勉強したいと思ってくれる人が沢山いて大変嬉しいです。多くの人にこの日本語教師の存在を知ってもらえるよう、活発に活動していきます。



ママさんサポーター

本学教員が代表を務める「助け合いの子育てネット」による、3歳未満の乳幼児を抱えたご家庭を支援する取組で、今年度で15年目を迎えました。学生が、サポーターとして週に1回2時間、受入れ家庭に訪問し、お母さんの目が届く範囲で、簡単な育児補助等を行います。母子の気分転換の機会をつくることも、学生が子育ての現場を少しでも経験し、自身の将来の子育てをよりよくすることも目的としています。「ママさん(現場者)」と「サポーター(未来の育児者)」双方が助け合い、子育てをよりしやすくなる環境づくりを目指します。



ママさんサポーター

上田 麻友香 (臨床心理学部臨床心理学科 3年次生)
梶渡 雄太 (臨床心理学部臨床心理学科 1年次生)

二人でご家庭に伺い、お子さんの遊び相手や、食事のお手伝いなどを行っています。お子さんと遊びながら、お母さんから育児のことを始め、色々なお話を伺っています。お母さんもお子さんも、私たちが来ることを楽しみにしてくださっており、いつも歓迎してくださいます。

普段小さな子どもと接する機会が少ないため、まだお子さんとどう接してよいかわからない戸惑いもありますが、お母さんの様子、お子さんの様子をよく見て、話しかけ方や接し方などを学んでいきたいと思っています。

参加学生の声



東日本大震災復興支援サークル

イーサポ

私たちは、2011年3月11日に起きた東日本大震災後に「自分たちにも何かできないか、できることがあるんじゃないか」との思いから学生有志で立ち上げ、「防災・減災」をキーワードに学内や地域で活動を行っています。主な活動としては、毎年行っている東北への現地震災ボランティアの運営・参加や、2016年4月に発生した熊本震災での支援活動、震災シンポジウムの開催のほか、京都府内9つの大学が集めた大学生消防防災サークル「京都学生FAST」に参加し、防災についての啓発活動も行っています。



東日本大震災復興支援サークル イーサポ
河路 佳純 (総合社会学部総合社会学科 4年次生)

イーサポに参加してから特に印象に残っていることは、2016年8月に熊本現地ボランティアに参加したこと。ボランティアの日程最終日に、活動させて頂いた避難所施設で際り際に現地の男性が声をかけてくれました。「この町はこれからどんどん元気になるから、あなたが結婚して子供も産んで、5年、10年後にまた来てほしい」。この言葉を聞いて、現地の人の力強さ、温かさを感じ、思わず涙ぐんでしまいました。被災地のために何かしたいと奮起した経験は、私の中の財産となりました。

参加学生の声



文教ストリートプロジェクト

大学近郊に位置する向島ニュータウンでは、核家族化や少子高齢化が進行し、子どもや高齢者の支援が求められています。本プロジェクトは、子どもの支援のため、向島ニュータウンセンター商店街内にある地域コミュニティスペース「京都文教マイタウン向島(MJ)」で、週1回、小学生を対象に勉強会を開催しています。ここでは、主に子どもたちに宿題を教えながら、一緒に時間を過ごしています。宿題が終わったら、みんなで遊び、この勉強会が子どもの居場所となるよう、活動に努めています。



文教ストリートプロジェクト 代表

横田 奈津希 (臨床心理学部臨床心理学科 3年次生)

私は勉強会が子どもたちの居場所となる事を意識しています。そのために、勉強をするだけでなく、みんなでルールを守ることや子どもたちとコミュニケーションをとることを大切にしています。喧嘩が起きること、意見がぶつかることも珍しくありませんが、子どもたちが勉強会に継続的に来て、親しみを持って話し掛けてくれることは私のやりがいです。地域の方から「子どもたちがいつも楽しみにしているよ」とお話を聞くと、活動してよかったと感じます。

参加学生の声



学生放送局

2015年8月に有志の学生により結成。ラジオ番組「文教シェルパ」を同年11月から京都リビングエフエム(FM845)で毎月第4木曜 午後12時30分から30分間放送しています。地域で頑張る人たちを学生目線で見つめ、大学周辺地域を盛り上げようというモットーで番組を制作。横島のクライング・ジムや伏見の酒蔵など様々な視点から地域を見つめています。また、京都市伏見区・宇治市で行われるイベントの司会・音響や大学学内放送、向島学生センターに住む外国人留学生とのクリスマスラジオ企画や商店街内放送など多岐にわたる活動により、より一層地域との関係を深めています。



学生放送局 代表

安倍 正章 (臨床心理学部臨床心理学科 3年次生)

ラジオ制作を行うことで、物事を0から作り出す大変さ、作り出したものを継続させるための苦労などを感じました。しかし、活動を通して出会った地域の方々との温かさや人のつながりにいつも助けていただいています。その恩返しとは少し違うかもしれませんが、人の温かさやつながりなど文字で伝えるのが難しいことを1人でも多くの人に伝えていくことを目標に、活動を続けていきたいと考えています。

参加学生の声



文教カフェANTENNA

文教カフェ ANTENNAは、学生の自主的なアイデアと活動で「大学および学生を活性化させていく」ことを目標とする「元気プロジェクト」の団体の一つです。「ノーマライゼーションの実現」という理念のもと、精神疾患をもつ学生が共にスタッフとしてカフェを運営しています。カフェで提供・販売しているお菓子やパン、ケーキなども、宇治市や京都市伏見区にある福祉施設から仕入れています。障がいをもつ方の社会参画の機会であり、また障がいをもつ方と働くことで、学生にとっても大きな学びの場となっています。

■営業時間:毎週水曜日 12:00~14:30 京都文教大学内恵光館3階



文教カフェANTENNA 代表

田中 淳一 (臨床心理学部教育福祉心理学科 3年次生)

活動の中で楽しかったことは、普段の営業や交流会などを通して、施設スタッフの方と少しでも距離を縮められたと感じることです。営業では来客数や売り上げに伸び悩みなど、苦労する点もありますが、学生メンバー、施設スタッフや職員の方、支えてくださる多くの方々と共に、改善する方法を模索して実践することもANTENNAの魅力の一つであると思います。今年は他団体とのコラボ企画イベントや、営業形態の一新など、お客様にとってより楽しい空間を提供できるよう努めています。

参加学生の声



ボランティアサークル まりも

宇治市にある知的障がい者の福祉施設を訪問し、自分たちで考えたレクリエーション企画を行うサークルです。3月・6月・9月・12月を目安に、一年間に4回の企画を開催しています。私たちは、利用者さんの余暇活動を豊かに過ごすために、どの様にすれば知的障害を持った方が参加しやすく楽しめるのか、試行錯誤しながら企画を計画・実行しています。例えば、3月には手作りリースターエッグ、6月には紙コップでオリジナル風鈴作り、12月にはクリスマスケーキ作りなど、その季節にちなんだお菓子作りや作品づくり、ゲームを行っている



ボランティアサークル まりも 副代表

菅 万優子 (臨床心理学部臨床心理学科 4年次生)

「まりも」の活動をやっている中で、職員さんとメンバー間の情報共有ミスから企画を失敗したことがありました。その失敗の後から、職員さんとメンバー間の情報共有を大事にし、利用者さんのことを考えて行動するようになりました。結果、次の企画は成功し、利用者さんに喜んでいただくことができました。この経験から「情報共有の大切さ」、「目の前の相手を第一に考えることの大切さ」を学び、日々の生活を送る中でも活かすことが出来るようになったことが私の中で成長したと感じています。

参加学生の声

